

実践報告資料

研究テーマ『わたしの居場所となる学校 ～つながりの中で子どもたちの人権の芽を育てる～』
 研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名 (稲美町立稲美中学校)

ア 人権教育としてのねらい

- ・ 生徒が安心できる、自己存在感や充実感をつくりだす「場づくり」を進める。
- ・ 昨年度作成した「稲美中学校人権宣言」をさらに深化させる。
- ・ 生徒自らが人権について考え、意見を交流し、さらなる人権意識の向上と生徒の自治能力の涵養を図るための場や時間を確保する。
- ・ 近隣の学校や家庭、地域と共に人権について考え、意見交換・共同体験をすることで、学校・家庭・地域が子どもたちの居場所となり、絆づくりのための場となることをめざす。

イ 研究の概要

令和6年度も①安心感がある ②受容されている ③役割がある ④自分らしくいられる という4つの要素をふまえた生徒活動をめざし、学校や学級を誰もが過ごしやすい居場所となるよう取り組みさせる。昨年度は「稲美中学校人権宣言」を作成した。令和6年度もこの宣言の内容を全校生で共有し、折に触れこの宣言を生活や行動の指針として活用するようにしていきたい。

また、人権教育資料の効果的な活用を通して、教師の指導力向上と生徒の人権意識の高揚を図る。

教科等	各教科 (英語科)	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動
指導者	推進教員	第3学年担任 推進教員	第1学年担任 推進教員	全教職員
実施日	1月20日	10月30日	11月7日	6月12日
取組名	SDGsについて考える 安全な水とトイレ	結婚差別について考える	「多様な性」について 学ぶ	生徒総会
目 標	安全な水の問題から、人権尊重やSDGsの取組について考える。	差別解消のための正しい知識の必要性を認識し、差別をなくそうとする意欲を高める。	多様な性について正しい知識を身に付け、あるがままの自分として生きることの大切さを理解させる。	だれもが生活しやすい稲美中学校を作るために、自分たち一人ひとりができることを考えさせ、意見を交流する。
資料名	NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍) 「SDGsについて考える」『きらめき』(県教育委員会)	「二人の三六五日」 中学校人権教育資料『きらめき』(県教育委員会)		
指導内容や指導方法の工夫等	教科書に登場する題材を基に、ケニアの水事情について考える。 導入でユニセフのデータを提示し、安全で管理された水が使えない人たちもまだ世界にはたくさんいることと、中村哲さんの動画で、安全な水の必要性を示す。不衛生な水やトイレの使用が、人々の健康や尊厳を奪うことを考えさせる。	事前学習として、社会科の時間に部落差別や差別の歴史について学習を行う。 部落差別について「自分には関係のないこと」や「昔の話」とせず、自分事として捉えられるように指導する。 差別につながる発言が出たときには、生徒が考える機会と捉え、別の場面・機会を考えさせる。	ゲストティーチャーとして前田良さんを迎え、全校生で「多様な性」について考える場を設ける。 1年生で、クラスごとに「多様な性」について学習し、その時もゲストティーチャーとして前田良さんに入ってもらい、子どもたちの意見や疑問に答える形で授業を進める。	だれもが生活しやすい稲美中学校にするため、全校生徒からアンケートをとる。 第1次で各クラスで意見交流をし、それぞれが考えたことをタブレットにまとめる。 第2次では全校で集まり、全校生徒から寄せられた意見を生徒会が紹介し、「稲美中学校人権宣言」の確認につなげる。